

ウォシュレット® 一体形便器

「ウォシュレット」はTOTO株式会社の登録商標です。

必ず実施

従来にはない
設定が必要です。

便器洗浄ボタンを押すと自動で便器洗浄水量を設定します。▶ P.12 **試運転** 機能の確認
[便器洗浄水量の設定] 参照

工事店様へ

- 施工の前には必ずこの説明書をよくお読みいただき、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
- **電気配線工事は必ず資格を持った電気工事士が行ってください。**

試運転を実施してください。

確認① 自治体によって洗浄水量の規制がある場合

- 大洗浄4.8L、小洗浄3.6L仕様を「大洗浄6L、小洗浄5L」または「大洗浄8L、小洗浄6L」仕様に変更することができます。
▶ P.13 **洗浄水量の切り替え** 参照

和洋リモデル工法の場合

- 大洗浄4.8L、小洗浄3.6L仕様を「大洗浄6L、小洗浄5L」仕様に変更してください。
▶ P.13 **洗浄水量の切り替え** 参照

水たまり面が低下した場合の変更方法 の設定をしている場合は、解除(もとの仕様に戻す)してから **洗浄水量の切り替え** の設定をしてください。また、**確認①** の設定をしている場合は、**確認②** の設定は不要です。

確認② 確認①で設定変更してない場合

大洗浄をしたあと、水たまり面の状態を確認してください。

正常な状態

設定変更は不要です。
(設定を行うと、洗浄不良になる場合があります。)



水たまり面が低い状態

設定変更を行ってください。
(洗浄水量を変えずに水たまり面を正常な状態にすることができます。)



〈水たまり面の判断に迷ったときは…〉
ペットボトルやバケツなどで徐々に水をたし、水たまり面が上昇しない場合は正常です。

※水たまり面が低いと汚物付着の原因になります。排水管に曲がりが多かったり、通気が不十分だったりすると、水たまり面が低下する場合があります。

安全上のご注意	2
取り付け前のご注意	3
取り付け前の確認	4
同梱部品	4
施工手順	4

1 給電位置の穴あけ	5
2 止水栓の取り付け	5
3 便器の取り付け	5
4 ウォシュレット本体の取り付け	6
5 電源ボックスの取り付け	8
6 リモコンの取り付け	11

試運転	12
洗浄水量の切り替え	13
給水フィルターの掃除 (試運転後)	14
製品引き渡しまでの期間が長い場合	15
工事店様へ	15

はじめに

取り付けかた

試運転他

安全上のご注意

安全上の警告・注意事項を必ず守ってください。

 警告	死亡や重傷を負う可能性がある内容です。	 注意	傷害や物的損傷が発生する可能性がある内容です。
---	---------------------	--	-------------------------

絵表示の例

	してはいけない「禁止」の内容です。		必ず実行していただく「強制」の内容です。
--	-------------------	---	----------------------

警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●指定する電源（交流 100V）以外では使用しない (火災や発熱の原因になります。) ●電源ボックス、電源コードや電源ケーブル（VVFケーブル）が傷んだままで使用しない (火災や感電の原因になります。) ●水道水および飲用可能な井戸水（地下水）以外は使用しない (故障や皮膚の炎症などを起こす原因になります。) ●電源ボックスは給水位置の真下に設置しない (結露水などにより電源ボックスに水がかかり、火災や感電の原因になります。) ●給水ホースは、電源ボックス、電源コードに接触させない (結露水などにより電源ボックスに水がかかり、火災や感電の原因になります。) ●車輻・船舶など、移動体への設置はしない (火災や感電、ショート、故障などの原因になります。) ●電源ボックス、電源コードや電源ケーブル（VVFケーブル）を破損させることはしない (火災、感電、発熱、ショートの原因になります。)
--	--

 必ず実行	<ul style="list-style-type: none"> ●電気工事は「電気設備技術基準」や「内線規定」に従って確実にを行う (火災や感電の原因になります。) ●電源は高速・高感度形の漏電遮断機で保護された回路に接続する (火災や感電の原因になります。) ●電源ケーブル（VVFケーブル）は3芯（φ1.6またはφ2.0銅単線）を使用する (火災の原因になります。) ●アース（D種接地）を確実に取り付ける (アース工事を行わないと故障や漏電のとき、感電の原因になります。) ●電源ボックス、電源コードは正しく組み立てる (感電の原因になります。) ●電源ケーブル（VVFケーブル）は正しい位置に根元まで差し込む (火災や感電の原因になります。) ●電源ボックスはシリコンシーラントで防水処理を行う (火災や感電の原因になります。)
--	--

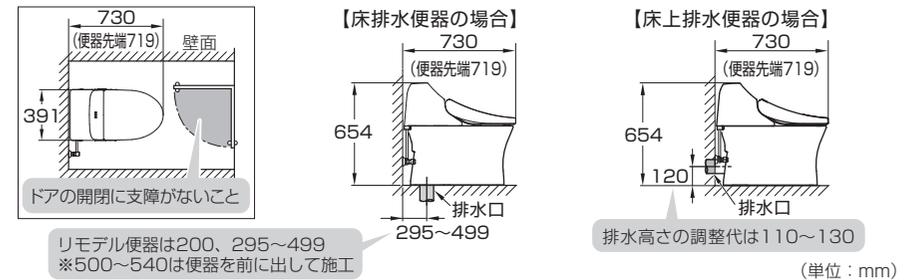
注意

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●便座・便ふたを持って製品を持ち上げない (ウォシュレット本体がはずれて落下し、けがをする原因になります。) ●給水ホースを折り曲げたり、つぶしたりしない、カッターなどで傷つけない (水漏れの原因になります。) ●止水栓を開けたまま、給水フィルター付水抜栓やフィルターふたを取りはずさない (水が噴き出します。)
--	--

注意

 必ず実行	<ul style="list-style-type: none"> ●施工は施工説明書に従って確実にを行う (正しく取り付けないと水漏れ、感電、火災の原因になります。) ●給水フィルター付水抜栓やフィルターふたを取りはずした場合は、確実に締める (確実に締めないと水漏れの原因になります。) ●電池の+-表示をよく確かめて入れる (電池の液漏れ、発熱、破裂や発火の原因になります。) ●長期間使わないときは、リモコンから電池を取り出しておく (電池の液漏れの原因になります。) ●固定ナット（4カ所）を確実に締める (固定ナットがしっかり締まっていると、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。)
---	---

取り付け前のご注意



1. 製品への通電および通水は取付作業をすべて終えてから行ってください。
2. 便器に取り付ける前に、通電しないでください。
温水タンクが空の状態ではヒーターが入るため、故障の原因となります。
3. 給水ホースの先端接続部にキズを付けないようにしてください。
4. 電源は交流100V(50/60Hz)です。
右表の、電力に適した配線をしているか確認してください。

定格消費電力	
	の場合 155W
	の場合 152W

5. 給水圧力範囲は下表で確認ください。この圧力範囲でご使用ください。

給水圧力範囲
0.05MPa(流動時)~0.75MPa(静止時)

6. 給水温度は0~35℃です。この温度範囲でご使用ください。
7. 同梱以外の止水栓、パッキンを使わないでください。
8. 便器洗浄に再生水を使用する場合は、別途ウォシュレット用に水道水および飲用可能な井戸水（地下水）を給水する必要があります。
9. 取り付けの際に別途手配が必要となる部材があります。下表でご確認の上、準備してください。

別途準備が必要な部材	備考
電源ケーブル（VVFケーブル）	電源ボックス用 [3芯（φ1.6またはφ2.0銅単線）]
シリコンシーラント	電源ボックスなどのシール材として必要

10. 電源コードの端子台（コネクタ）に電源ケーブル（VVFケーブル）を1度差し込むと抜けませんので、十分注意して接続してください。

※出荷前に通水検査をしていますので、製品内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け前の確認

下記の場合はTOTOメンテナンス(株)TOTOパーツセンターへご連絡ください。

TEL ☎ 0120-8282-55 FAX ☎ 0120-8272-99

※仕様・品番などは予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

給水ホースの長さが不足している場合

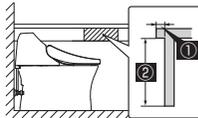
給水ホースの長さは約535mmです。

給水ホースの長さが足りない場合は、右表の給水ホースをご購入ください。

給水ホース長さ(mm)	品番
785	TCA249

カウンターの場合 リモコンをカウンターに取り付ける場合

カウンターに段差がある場合は、右記の専用スペーサー(リモコン用、便器洗浄リモコン用)をご購入ください。



カウンター寸法		リモコン用		便器洗浄リモコン用	
①	②	品番	品番	品番	品番
6mmまで	90mm	TCA287	TCA297		
6~14mmまで	以上	TCA288	TCA298		

同梱部品

※使用しない場合は、必ずお客様にお渡しください。 ※リモコンはいずれかが同梱されています。

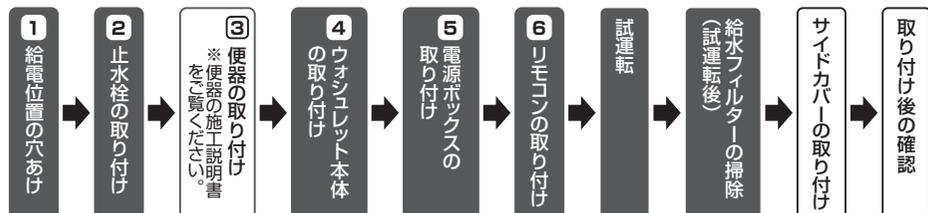
※必ず同梱の止水栓を取り付けてください。

リモコン部品		電源ボックス	
<p>リモコン(乾電池式)</p> <p>ハンガー</p> <p>単3乾電池(2本)</p> <p>ねじ①(3本)</p> <p>アンカープラグ(3本)</p> <p>ねじ②(1本)</p> <p>固定部品(1個)</p> <p>ねじ③(1本)</p>	<p>便器洗浄リモコンタッチスイッチ(乾電池式)</p> <p>ハンガー</p> <p>単3乾電池(2本)</p> <p>ねじ①(2本)</p> <p>アンカープラグ(2本)</p> <p>ねじ②(1本)</p> <p>固定部品(1個)</p> <p>ねじ③(1本)</p> <p>ラベル(使用方法)</p> <p>取付説明書</p>	<p>カバー</p> <p>ふた</p> <p>電源ボックス本体</p> <p>ねじ④(4本)</p> <p>ねじ⑤(4本)</p> <p>アンカープラグ(4本)</p>	<p>止水栓(給水フィルター付)</p> <p>※必ず同梱の止水栓を取り付けてください。</p> <p>取付ボルト組品</p> <p>プラグ(4本)</p> <p>固定ナット(4個)</p>
<p>位置決め治具</p> <p>フランジ付六角ナットM3(6個)</p> <p>調整ねじM3×50(3本)</p> <p>六角穴付ボルトM3×6(2本)</p> <p>ボックスドライバー</p>	<p>ロータンクパッキン</p> <p>印刷物</p> <p>の場</p> <p>の場</p>		

施工手順

この施工手順に従って便器・ウォシュレットを正しく取り付けてください。

(○は便器、●は本紙の施工説明書を参照ください。)



取り付けかた

●機種によっては、製品の形状などが異なります。

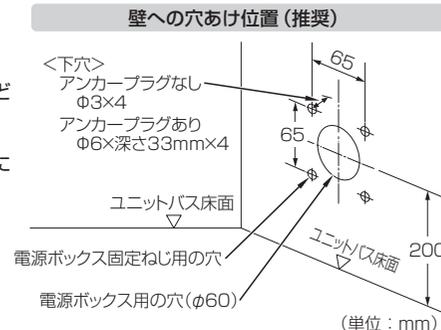
●止水栓・パッキンは必ず同梱のものを使用してください。

1 給電位置の穴あけ

1 電源ボックス用と電源ボックス固定ねじ用の穴あけ位置を決める

●現場の壁裏配管や補強材の位置、意匠などを確認し、電源コードの届く範囲にする(電源コードの長さは約1.8mです。)

●高さは右図で示している推奨寸法を目安にしてください。



2 電源ボックス用と電源ボックス固定ねじ用の穴をあける

●あけた穴のバリを取ってください。

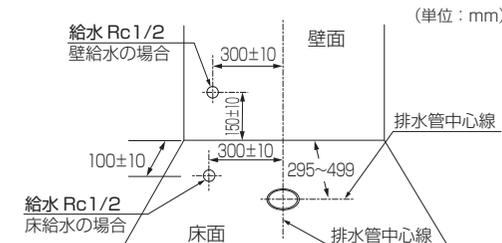
2 止水栓の取り付け

1 給水金具と排水管の位置を決める

※給水口と排水口は、ゴミなどが入らないよう、ビニールなどをかぶせておいてください。

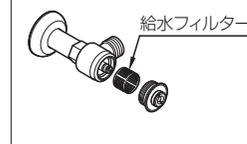
リモデルのときは…

便器の施工説明書の取付範囲を確認してください。

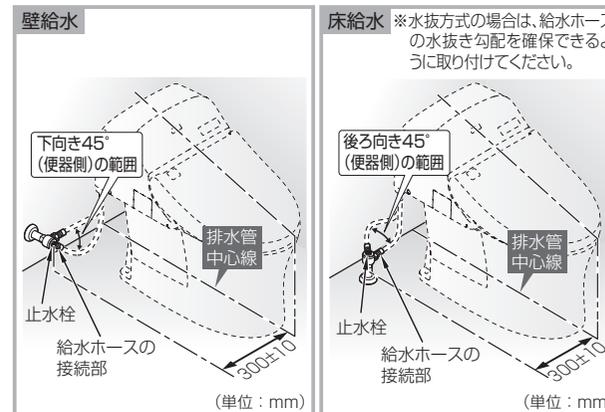


2 止水栓を取り付ける

注意
必ず同梱の止水栓(給水フィルター付)を取り付けてください。



給水ホースがきちんとおさまるように右図の範囲で給水ホース接続部を折れ曲がらないように取り付けてください。



3 便器の取り付け

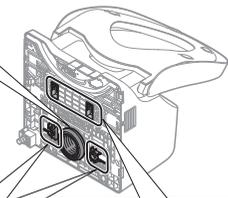
便器部の施工説明書に従い、便器を取り付ける

4 ウォシュレット本体の取り付け

1 ウォシュレット本体底面にロータンクパッキンを取り付ける



奥まで確実に入れる
正しく取り付けないと
水漏れの原因になります。



2 ウォシュレット本体底面にプラグ（4本）を取り付ける

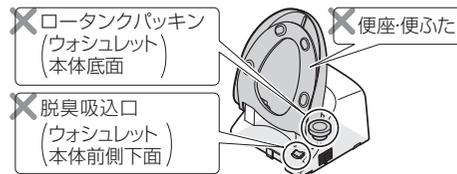


3 ウォシュレット本体を使器に取り付ける



注意

- パッキンおよび給水口周辺のゴミは必ず取り除いてください。ゴミを取り除かなかつたり、ウォシュレット本体をななめにおろすとパッキンがめくれたり、水漏れの原因になります。
- ウォシュレット本体を持ち上げるときは、下図の場所は持たないでください。下図の場所を持つと、便ふたがはずれたり、製品が破損する原因になります。



4 固定ナットでウォシュレット本体を固定する（4カ所）

※後側2カ所を先に固定してください。その後、便座の位置を合わせて前側2カ所を固定してください。

注意

固定ナットを締め付けるときは必ず手で行ってください。工具を使用すると破損の原因になります。

- 固定ナットを手締めで回らなくなるまでかたく締め付ける

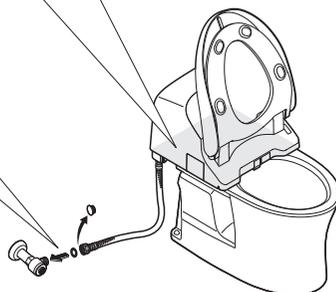
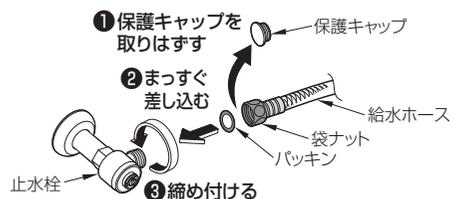


必ず手で締め付ける
工具使用禁止

確認!

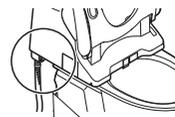
- ※1 再度、確実に締まっていることを確認してください。
- ※2 ウォシュレット本体のガタつきがないことを確認してください。

5 保護キャップを取りはずし、止水栓に給水ホースの袋ナットを締め付ける

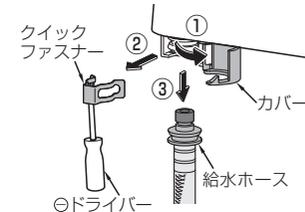


給水ホースの長さが足りない場合は、適切な長さのホースをご購入ください。
→P.4 給水ホースの長さが不足している場合 参照

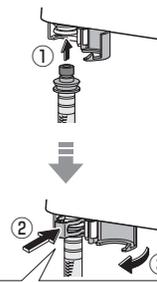
長さ違いの給水ホースを取り付ける場合



1 給水ホースを取りはずす



2 長さ違いの給水ホースを取り付ける



注意

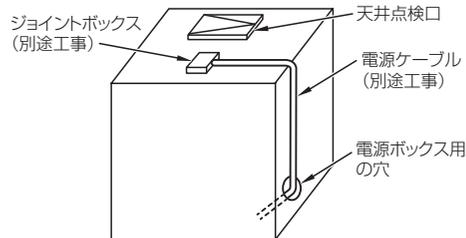
※すき間なく、奥まで差し込む



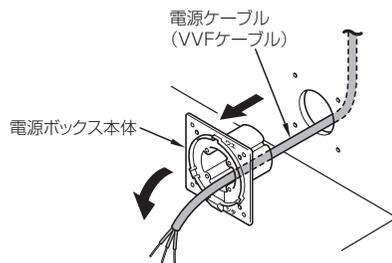
5 電源ボックスの取り付け

1 天井裏のジョイントボックスから電源ボックス用の穴に電源ケーブル (VVFケーブル) を配線する

- 電源ボックス用の穴から出す線の長さに余裕を持たせてください。

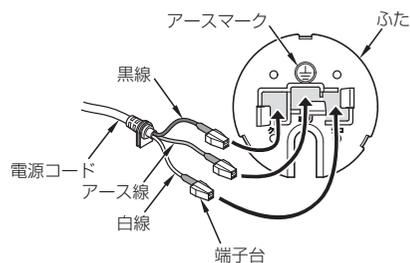
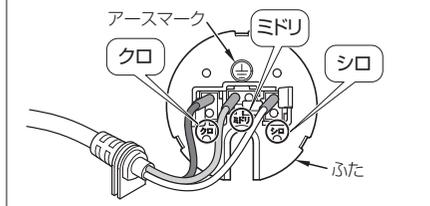


2 電源ケーブル (VVFケーブル) を電源ボックス本体に通す

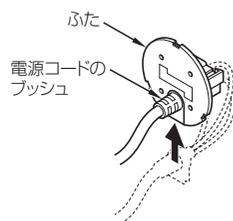


3 ウォシュレット本体の電源コードの端子台 (黒線・白線・アース線) をふたの「クロ」「シロ」「ミドリ」に正しく差し込む

注意 電源コードは図のように差し込むこと



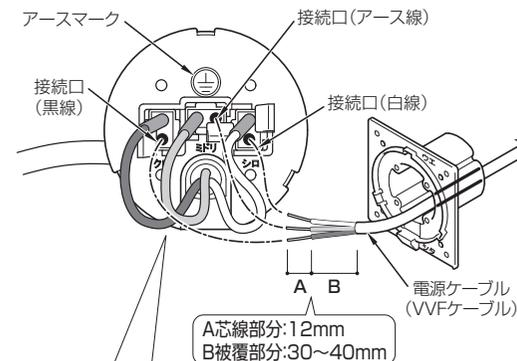
4 電源コードのブッシュをふたに差し込む



5 電源ケーブル (VVFケーブル) を端子台の接続口に差し込む

警告

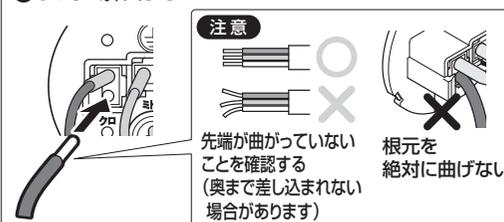
電源ケーブル (VVFケーブル) は正しい位置に根元まで差し込む (火災や感電の原因になります。)



1 先端をそろえる



2 まっすぐ挿入する



3 芯線が抜けを確認する

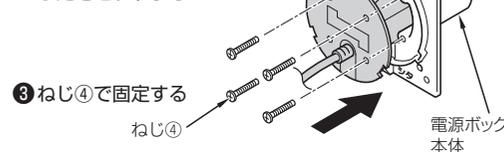
6 電源ボックス本体とふたをねじ④で固定する (4カ所)

- 内部に水が侵入しないように最後まで締め付けてください。

1 電源ボックス本体の「ウエ」表示が上側にあること確認する

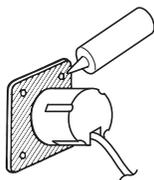


2 電源ボックス本体とふたをセットする



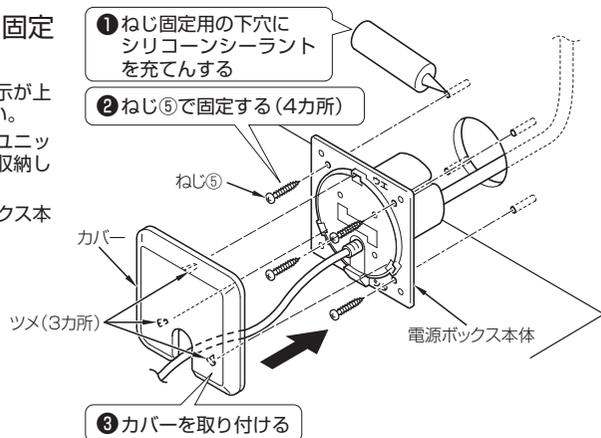
5 電源ボックスの取り付け(つづき)

7 電源ボックス本体の裏面にシリコンシーラントを塗布する



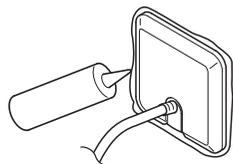
8 壁に電源ボックス本体を固定する

- 電源ボックス本体の「ウエ」表示が上側にあることを確認してください。
- 電源ケーブル(VVFケーブル)はユニットバスの壁裏に入れ込むように収納してください。
- カバーのツメ(3カ所)を電源ボックス本体へ確実に固定してください。

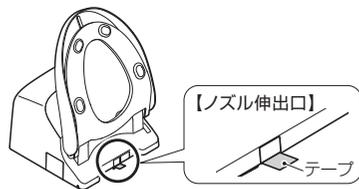


9 カバーの全周にシリコンシーラントを塗布する

- シリコンシーラントを塗布するときは、仕上げ面を汚さないように、マスキングテープなどを利用してください。
- シリコンシーラントがはみ出した場合は、きれいにふき取ってください。



10 ノズル伸出口に貼っているテープをはがす



11 ウォシュレット本体に通電する

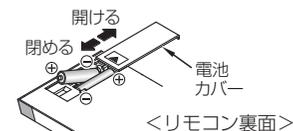
- ノズルがいったん出て戻る初期動作を確認してください。

6 リモコンの取り付け

□の場合

1 リモコンに乾電池を入れる

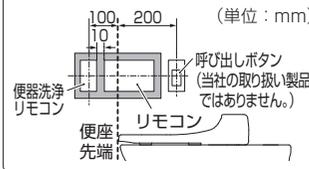
- 電池カバーを開き、単3乾電池を2本入れる



2 取付位置を決める

便器洗浄リモコンの取り付けかたは、「便器洗浄リモコン取付説明書」をご確認ください。

【公共トイレ操作系JIS(JIS S 0026)に対応する場合の取付位置】



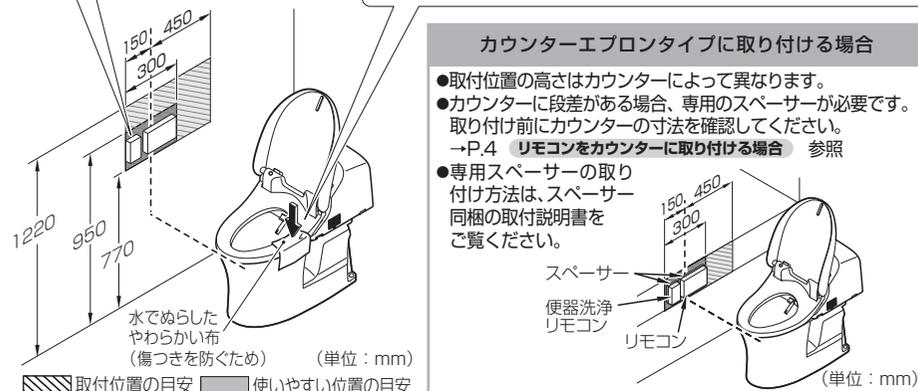
【作動の確認】

- ① 便座の右側を手で押す
- ② 「おしり」ボタンを押してノズルが伸出することを確認する
- ③ 「止」を押す
- ④ 作動しない場合
→リモコンの位置を変えるか、反対側の壁で確認
※下記の場合、リモコンの受信性能が変わり、ウォシュレット本体が作動しないことがあります。
 - 室内の広さ、器具のレイアウトなどの条件が合わないとき
 - 天井や壁の色(黒っぽい場合)・形状・材質などの条件が合わないとき
 - 後ろ壁に棚やキャビネットなどがあるとき
 - インバーター方式の照明下のとき



カウンターエプロンタイプに取り付ける場合

- 取付位置の高さはカウンターによって異なります。
- カウンターに段差がある場合、専用のスペーサーが必要です。取り付け前にカウンターの寸法を確認してください。
→P.4 リモコンをカウンターに取り付ける場合 参照
- 専用スペーサーの取り付け方法は、スペーサー同梱の取付説明書をご覧ください。

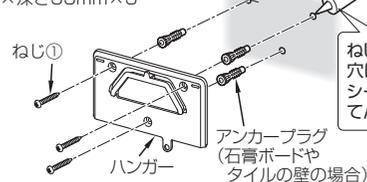
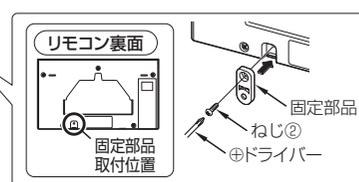


3 ハンガーを取り付ける

① ハンガーを壁に取り付ける

- ＜下穴＞
アンカープラグなし
Φ3×3
- アンカープラグあり
Φ6×深さ33mm×3

② リモコンに固定部品を取り付けてセットする



③ ハンガーとリモコンをねじ③で固定する



□の場合

ホテル用リモコン施工説明書に従い、リモコンを取り付ける

試運転 (各項目を確認後、□に✓してください)

●試運転の前および試運転完了時は必ず通電されていることを確認してください。
(ウォシュレット本体表示部の「運転」ランプが点灯します。)

機能の確認

止水栓を開ける

※付属の開閉工具を使用してください。作業が完了したら、必ずお客様にお渡しください。
※タンク給水中「ヒュー」という音がある場合は、給水圧が高くなっていますので、音が鳴らなくなるまで止水栓を少し右へ回してください。
※万一、水漏れがあれば再施工を行い、水漏れを止めてください。

水漏れチェック
⇒水漏れする場合
 同梱部品を使用していますか

パッキン
※新しいものを使用しないと、水漏れの原因になります。

運転ランプが点灯していますか

ウォシュレット本体表示部

リモコンの水勢ランプが点灯していますか

便器洗浄水量の設定を行いましたか

●本製品は、最初の便器洗浄時に自動で使用環境の水圧条件を計測し、便器洗浄水量を設定します。

リモコンの「大」または「流す」ボタンを押す → **設定開始**

＜便器洗浄水量設定中の表示＞

設定完了

次のような場合は、正しく設定できておりません。(一定時間で通常の表示に戻ります。)

- 製品からの電子音「ピーツ、ピーツ」
- 本体表示部点滅

一度設定を解除してから、もう一度、設定しなおしてください。解除方法は下記をご確認ください。

設定解除方法

リモコンの場合	リモコンの場合
<ol style="list-style-type: none"> 「大」と「流す」を同時にリモコンランプすべてが点滅するまで押す(約10秒) 「便座」を約5秒以上押す → 「ピーツ」という電子音が鳴る 「大」を押す 「流す」を押す 	<ol style="list-style-type: none"> 「大」と「流す」を同時に押す(約10秒) → 水勢ボタンすべてが点灯 → ボタンから手を離すと、すべてが点滅 「大」を約5秒以上押す → 「ピーツ」という電子音が鳴る 「大」を押す 「流す」を押す

設定中は…

- お風呂や洗面器などの水を使用しない (お客様にもお伝えください。)
- すべてのボタンを押さない
- 止水栓を開閉しない

正しく洗浄水量の設定ができない原因になります。

自動で3回または6回連続で便器洗浄し、完了するまで最大約5分かかります。

機能の確認 (つづき)

便器洗浄時にウォシュレット本体底面から水漏れなどの異常がないかを確認しましたか

自治体による洗浄水量の規制に合った水量設定を行いましたか

水たまり面が低下していませんか

大洗浄をしたあと、水たまり面の状態を確認してください。※「自治体によって洗浄水量の規制がある場合」の設定をしている場合は、この設定は不要です。

⇒詳しくは、表紙「工事店様へ 確認②」参照

設定変更は不要です。 (正常な水たまり面)

設定変更を行ってください。 (水たまり面が低い)

設定変更のしかた
下記「水たまり面が低下した場合の変更方法」をご確認ください。

【作動の確認】

- 便座の右側を手で押す (スイッチ ON!)
- 「おしり」ボタンを押す (水は紙コップなどで受けてください。)
- 「止」を押す

水でぬらしたやわらかい布 (傷つきを防ぐため)

洗浄水量の切り替え (リモコンで設定を行ってください)

洗浄水量の切り替え

自治体によって洗浄水量の規制がある場合 ●大洗浄4.8L、小洗浄3.6L仕様を下記
の水量に変更することができます。

和洋リモコン工法の場合 ●大洗浄4.8L、小洗浄3.6L仕様を「大洗浄6L、小洗浄5L」仕様に変更してください。

リモコンの場合

- 「大」と「流す」を同時にリモコンランプすべてが点滅するまで押す(約10秒)
- 大洗浄6L、小洗浄5L仕様への切り替え方法
水勢 設定
「+」と「1」を同時に押す → 「ピーツ」という電子音が鳴る
- 「大」を押す

リモコンの場合

- 「大」と「流す」を同時に押す(約10秒) → 水勢ボタンすべてが点灯 → ボタンから手を離すと、すべてが点滅
- 大洗浄6L、小洗浄5L仕様への切り替え方法
水勢 設定
「+」と「1」を約5秒以上押す → 「ピーツ」という電子音が鳴る
- 「大」を押す

(もとの仕様に戻るときは同じ操作を行い、②で「ピーツ」という電子音が鳴れば設定完了です。)
※変更した場合、便器洗浄してから約1分後に便器水たまり面の高さを戻すために水を補給します。

水たまり面が低下した場合の変更方法

●大洗浄4.8L、小洗浄3.6Lの洗浄水量は変わりません。

リモコンの場合

- 「大」をリモコンランプすべてが点滅するまで押す(約10秒)
- 「大」と「流す」を同時に押す → 「ピーツ」という電子音が鳴る
- 「大」を押す

リモコンの場合

- 「大」と「おしり」を同時に押す(約10秒) → 水勢ボタンすべてが点灯 → ボタンから手を離すと、すべてが点滅
- 「大」と「流す」を約5秒以上押す → 「ピーツ」という電子音が鳴る
- 「大」を押す

(もとの仕様に戻るときは同じ操作を行い、②で「ピーツ」という電子音が鳴れば設定完了です。)
※変更した場合、便器洗浄してから約1分後に便器水たまり面の高さを戻すために水を補給します。

給水フィルターの掃除(試運転後)

【便器側】

1

1 閉める
止水栓
開閉工具

2 ノズルを伸出させる
※給水管内の圧抜きです。
□の場合
①「ノズルそうじ」ボタンを押し、ノズルを伸出させる
②もう一度「ノズルそうじ」ボタンを押してノズルを戻す
□の場合
①「止」と「ビデ」を約3秒以上押し、ノズルを伸出させる
②「止」を押して、ノズルを戻す
3 通電を止める

2

注意
確実に締めないと水漏れの原因になります。

2 歯ブラシなど
給水フィルター
ふた
開閉工具

3

1 全開
水漏れチェック
2 通電する

【ウォシュレット側】

1

1 閉める
開閉工具
止水栓

2 ノズルを伸出させる
→P.14
【便器側】
1-2 参照
3 通電を止める

6

給水フィルター付
水抜栓
⑤
⑦
⑥ 歯ブラシなど
ぞうきんなど
ドライバー

2

1 全開
水漏れチェック
2 水漏れチェック
カバー
3 通電する

製品引き渡しまでの期間が長い場合

1 配管の水を抜く

1 閉める
開閉工具
止水栓

2 タンクの水を抜く
リモコンの「大洗浄」または「流す」ボタンを押す

3 ノズルを伸出させる ※給水管内の圧抜きです。
→P.14 給水フィルターの掃除(試運転後)
【便器側】 **1-2 参照**

4 通電を止める

2 配管の水を抜く

給水フィルター付
水抜栓
1
2
ドライバー
ぞうきんなど

3 水抜きプラグをはずす

水抜きプラグ

●ノズル付近から水が便器内に出ます。水が完全に抜けるまで約90秒かかります。

水が出なくなるまで待つ

4 水抜きプラグ、カバーを取り付ける

1
2

工事店様へ

- 使用しない乾電池は、工事完了後お客様にお渡しください。
- 取扱説明書の保証書に必要事項を記入のうえ、お客様にお渡しください。
- ウォシュレットの機能、使いかたについてお客様に説明してください。新築などでお客様に製品を引き渡すまでの期間が長いときは、止水栓を閉め、通電を止めてください。
- 連立対応については、(URL) <http://search.toto.jp/contents/navi/> の「施工情報」→「ウォシュレットリモコン連立対応方法」をご覧ください。※機種により掲載されていない場合があります。
- 使いかたラベルは、取扱説明書の袋に入っています。お客様に確認を行い、貼り付けてください。

試運転他